

東風

こち

多家良中央コミュニティ

協議会

会長 松崎 茂

すっきり秋らしくなつて参りました。

みなさまにおかれましては益々ご健勝にてご活躍のことと拝察いたします。平素より弊コミュニティの活動に多大なるご支援ご理解を賜りましてまことにありがとうございます。

さて、「第八回コミュニティまつり」は「美術展」として来年二月に開催したいと存じます。平成十八年の美術展では広く多家良五町のみならずまにご協力賜りたくさんのご出展とご来館をいただき大賑わい、大好評で終了できました。その節、もう一度同様の企画をと多くの方々から要望されました。弊協議会の運営委員も「是非実施しよう」と意気込んでいます。

発行・編集
コミセンだより
広報委員会
責任者
立川啓二

つきましては近いうち、各町協議会長さま公民館長さまあて、ご出展募集のお願いをいたしますので、よろしくご支援賜りますようお願い申し上げます。



多家良中央児童館

福本 輝実

児童館まつり

十月十二日(日)、さわやかな秋晴れの中、たくさんの人たちが来てくれて、盛大に児童館まつりが行われました。前日のテントの準備から始ま

り、当日ので、地域の方、保護者の方、たくさんの方たちに手伝ってもらい、本当に、感謝しています。

ういずまざーずさんによる人形劇、てるてるアトバルーンの大道芸ショー、そして、お父さんたちによるおぼけやしきでは、子どもたちの真剣な顔、楽しそうな顔、笑ったり、泣いたりといろんな表情が見られました。



中庭の模擬店では、うどんやしゃやてき(射的)など、どのお店も、大盛況で列ができて、大人も子どもも、楽しめるおまつりができたことをとてもうれしく思います。



又、来年も、もっと楽しい児童館まつりができるよう、御協力お願いします。



公民館

館長 堀井昭克

一、敬老会の報告
多家良町は春五月十一日に

開催、該当者は二百三十八名中、百六名の方が出席されました。八多町は秋九月十五日開催で該当者二百八十七名中六十一名の方が出席されました。



長寿をお祝いすると共に末永くご健康で活躍されますようお祈り申し上げます。



徳島市をはじめ地元団体の各会長さま多数のご臨席をいただき盛大に開催。



宮井小学校の一、二年生に八月一日、西富田公民館の岩佐館長をお迎えし実施しました。生徒さんは館長の身振り手振りのユーモラスなお話しに夢

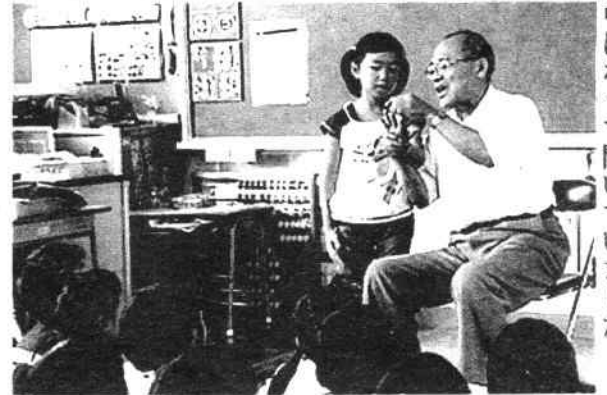
二、おはなしを聞く会 (学遊塾)



午後は演芸の部で保育所のかわいい演技に始まり歌に踊りと数々のプログラムで大いに楽しみいただきました。



とても楽しかったようで「また来てよ！」の合唱で別れました。



中になって聞いていました。

四、人権研修について 第三十六回徳島市人権教育・啓発研究会が十一月八日、市内五会場で実施されます。当 館も第三会場として市

市民生活課のお二人の講師にビデオや資料で自転車、自動車の運転の注意や散歩、道路横断時の注意をお話しいただきました。「とても役に立った。これからお互い気をつけよう」と感心したことでした。



三、ふれあい教室 八多町で高齢の方十四名に参加いただき「高齢者の交通安全教室」を十月十日に開催、

敬老の日もめでたく過ぎましたが、「東風」編集委員の方から高齢になられても元気でご活躍されている蔵本先生のお話し随筆などを是非ご紹介させていただき、そして沢山の高齢者の方々に

五、徳島市公民館大会 市内三十一ヶ所の公民館関係者が集い功労者表彰や日頃の公民館を利用しての成果発表会が行われます。当公民館からは「ふれあい教室」から白滝フクエ様、「スクラム学級」から立岩えみ子さんが表彰されます。成果発表会は代表して茂久静会の佐香文子さんと池尻美穂子さんにご出席いただきます。

内の6ブロックより百十名の参加者が予定され、テーマとして「女性の人権」を中心に討議されます。司会者、記録者を地元で担当するため人選も済み、十月二十七日に本部役員と勉強会を開き、実施に万全を期します。

生き方や元気を出すお力添えを致したい、との申し出がありました。早速先生にお願いし快諾をいただきましたのでシリーズとしてご紹介いたします。



第一回「健康長寿を目指して」

蔵本正二郎

随筆の足跡 第三部より
高齢者よ

健康で元気に過ごそう

電話のベルが鳴った。急いで出ると宝寿会の安廣会長からだった。十八年度の市老連文化祭作品展に写真を出展しないかと言う勧誘であった。年齢が九十四歳、最近制作していないからと辞退した。この作品展は次第に出展数が減っていると安廣会長も言っていた。最近が高齢化が進ん

でいるので出展者も少なくなつたのではないかと返事したことであつた。私は平成五年度の作品展に初めて出展した「ひまわり」が市長賞となり、それから平成十四年に病氣して手術した時以外は、ほとんど毎回出展して十三年になる。入賞も市長賞二回、議長賞一回、会長賞三回受賞している。現在は年齢が九十四歳を過ぎている。新しい作品もできていない。もう引退する時だと思つていた。

その日の四国放送テレビで「四国ビタミン、老いの達人、美しく年をとる」の放映があり、愛媛県内子町の上堂喜太郎さんの元気な姿があつた。



上堂さんは百二才、非常に元気で毎朝ラジオ体操やジョギングをしたり趣味に絵を描い

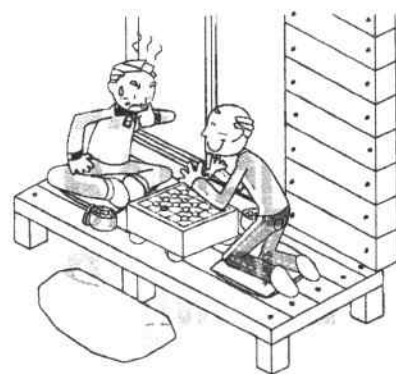
ているという。それは写真を見て風景画を描いているようだ。なかなか上手だと思う。この人から見れば私は若造かも知れない。そう思うと宝寿会長の勧めを断つたのは早計かも知れないと思つた。しかし、絵は写真を見ても描ける。



写真は被写体を探し方々へ行って撮影する必要がある。車の運転ができない高齢者にとつては無理である。やはりあきらめることにした。

先日はテレビで「しいのみ学園」の創始者の昇地三郎さんのことが放映されたが、この人は百歳で講演旅行をしているという。また、音楽家の百三歳の中川牧三さんは今なお現役で活躍しているという。

自分はこの人から見れば若造、この人たちの元気に負けなように頑張ろうと思つた。



この人たちに共通点がある。現役の人や仕事、または趣味という目標を持っている点である。また高い技術や知識が備わっている。その上、健康維持のために格別の努力を払つておられる。上堂さんは生きる力は自分で付けると頑張る、自分のことは自分ですると言ひ、買い物にも出掛けると言われる。勿論、足が丈夫なことは共通しているが、そのうへ前向きで積極的な生活を実行している。高齢者は誰もが心掛けなくてはならないことである。(06.10.4)

「すかれる老人術」

- 一、清潔を第一とする
- 二、背筋を正しくする
- 三、オシヤレを忘れない
- 四、何事にもゆとりを持つ
- 五、前向きに生きる
- 六、いい仲間を持つ
- 七、感謝の心を忘れない
- 八、聞き上手に努める
- 九、社会奉仕に関わる
- 十、高齢者としての自覚を持つ



蔵本先生の高齢になつても衰えない、前向きな姿勢は是非、見習いたいものです。さてこのたび、書道家の中谷ツヤ子先生から立派な作品を頂きました。生涯教育をテーマとしたものです。

「小にして学べば、即ち社にしてなすことあり
社にして学べば、即ち老いて衰えず

老いて学べば、即ち死して朽ちず」
 子供のときに学んでおけば、大人になってから立派な仕事が出来ると。大人になってから学べば、老いても衰えない。老いて学べば死んでも名を残す。という意味です。



早速コミセンに飾らせて頂きました。この書は暫くコミセンに飾った後、町民の方に差し上げます。

ご希望の方はコミセンまでご連絡ください。



秋祭りのご案内

宮井八幡神社

十月十七日(金)～十九日(日)

加茂神社

十一月二日(日)～三日(月)

早雨神社

十一月七日(金)～八日(土)

小倉八幡神社

十一月八日(土)～九日(日)



小倉八幡神社の子供相撲は九日の午後一時からです。地区を問いませんのでふるってご参加下さい。

そして、十一月八日の朝八時半から小倉八幡神社社務所で空手三空会の模範演技があります。

皆さん見に行つてあげて下さい。子供達の元気一杯の演技を観ることが出来ます。

八幡神社は戦いの神様で、戦国武将もこぞって参拝に訪れた場所です。相撲に空手に、元気な子供達を見て応神天皇もお喜び頂ける事と思います。

尚、宮井八幡神社の日程について編集の関係上、間に合わなかった事を深くお詫び申し上げます。

かぼちゃピタリ賞受賞

多家良町中央公民館

館長 堀井 昭克

この度、あせび会からピタリ賞をいただきました。

「あせび会」とは、徳島県立総合教育センター(板野郡板野町)の職員互助会の名称です。



センター敷地の畑でできたジャンボカボチャについて、職員一同で相談の結果、夏休みの企画としてこの重さを当てるクイズをして、センターの存在を県民にPRすることに

決定いたしましたそうです。

事務所内に実物を展示し、応募用紙と投票箱をそばに置き、広く募っていました。

私も県公民館連絡協議会の役員として、七月十八日会議の昼休み中に企画に賛同し、勧められるままに応募しました。触ったところ米袋(三十キロ)よりおもそうだったし、まず四十キロはある。

第 1 位
 (ピタリ賞・43kg800g)
 堀井 昭 克 殿
 あなたは あせび会主催「ジャンボかぼちゃ」重さ当てクイズにおいて優れた重さ感覚を発揮され見事に頭等の成績を収められました。(正解43kg800g)ここに その栄誉をたたえ賞状と賞品を贈ります
 平成20年9月1日
 中央公民館教育センター
 館長 堀井 昭 克

そして「当たるもはつけ」主義で端数は「嘘の三八」にあやかり、三キロと八百、合計で四十三キロ八〇グラムと書いて投票しました。その後、九月一日に私がピタリ賞との電話あり、端数のグラムまで合致して、審査員もビックリしたと知らせあり。職員互助会が費用を出し合ったという企画なので、図書券ぐらいと思いい、「次点の子供さんにお譲りします」と、お断りし



たのですが、珍しいピタリリの回答なので「是非受け取ってください」といわれ、九月二日お伺いを約束して、センター所長(互助会会長)より表彰を頂きました。

賞品は豪華なカセットデッキでびっくりしました。

◆◆ 編集後記 ◆◆

この回も編集が遅れまして、申し訳有りません。寄稿頂いた方にはご迷惑をおかけしました。

今回から数回に渡り蔵本先生の随筆を連載致します。これを期に生涯教育について改めて考えてみたいと思います。